

第三回 平成30年度・31年度
地層処分事業に係る社会的側面に関する調査研究支援事業 運営委員会
議事録

【日時】 平成31年4月24日（水）13:00～17:25

【場所】 三菱総合研究所 4階 会議室 CR-B

【出席者】（順不同、敬称略）

○委員長

原田 久（立教大学 法学部 教授）

○委員

齊藤 誠（名古屋大学大学院 経済学研究科 社会経済システム専攻 教授）

勢一 智子（西南学院大学 法学部 教授）

高橋 信（東北大学大学院 工学研究科 技術社会システム専攻 教授）

朽山 修（公益財団法人原子力安全研究協会 技術顧問）

○オブザーバ

那須 良（経済産業省資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 放射性廃棄物対策課長）

引地 悠太（経済産業省資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 放射性廃棄物対策課
技術室 室長補佐(兼国際班)）

村山 香（経済産業省資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 放射性廃棄物対策課係長）

大貫 智弘（原子力発電環境整備機構 事業計画部長）

鈴木 誠司（原子力発電環境整備機構 事業計画部 副部長）

西野 稔（原子力発電環境整備機構 事業計画部 企画グループ課長代理）

仁戸部 真生（原子力発電環境整備機構 事業計画部 企画グループ）

○運営事務局

【議題】

- （1）前回議事録の確認
- （2）第二回運営委員会での審査内容の振り返り
- （3）中間報告

【資料】

- ・ 議事次第
- ・ 委員名簿
- ・ 席次表
- ・ 前回議事録
- ・ 資料1 採択研究計画書・経費内訳書一式
- ・ 資料2 採択時論点整理資料
- ・ 資料3 中間報告資料一式

【議事概要】

1. 開会

- 委員長より、開会の挨拶が行われた。
- 委員長より、本日の流れについて説明がされた。
- 運営事務局より、配布資料の確認がされた。

2. 議事

(1) 前回議事録の確認

- 前回議事録が確定された。

(2) 第二回運営委員会での審査内容の振り返り

- 運営事務局より、資料2に基づき第二回運営委員会での審査内容について報告された。

(3) 中間報告¹

- 早稲田大学松岡氏より、「高レベル放射性廃棄物（HLW）の地層処分をめぐる社会的受容性と可逆性」について中間報告がされた。
- 大阪大学戸谷氏より、「地層処分をめぐる住民との対話を促進させる手法の研究」について中間報告がされた。
- 専修大学秋吉氏より、「信頼の形成に向けて——日本版 Citizen Advisory Board の可能性の探究」について中間報告がされた。
- 東京大学小松崎氏より、「事業プロセスに応じたリスクコミュニケーション施策の検討と実証的影響分析」について中間報告がされた。
- 静岡大学萱野氏より、「Argument による合意形成プロセスモデルの授業デザインと実践」について中間報告がされた。
- 関西学院大学野波氏より、「地層処分をめぐる多様な人々の合意を目指す段階的・協調的アプローチの提唱：社会心理学の知見にもとづく多角的検証」について中間報告がされた。
- 東京理科大学高嶋氏より、「高レベル放射性廃棄物地層処分の経済的価値と社会的受容性の関係」について中間報告がされた。

3. 閉会

- 委員より、全体を通じたコメントがされた。主なコメントとして、学際的な取り組みや新しい取り組みも多いため各研究で進捗に差が見られること、各研究者が様々な形でアプローチしながら望ましい形を模索するとよいこと、将来的には研究者間で研究内容を共有できるとよいことなどがあった。
- 委員長より、本事業では研究者のすそ野を広げることも重要であり本事業を実施して

¹ 中間報告の内容が公開されることで申請団体の正当な利益が害される可能性があるため、詳細については非公開。

よかったとのコメントがされた。

- 委員長より、2019 年 7 月に研究の支援期間が終了すること、次回運営委員会は 8 月に開催予定であること、成果報告会は 9 月 6 日の開催が確定していることについて説明がされた。

以上